

1-2-13-6 田中大秀大人之碑

(正面) 田中大秀大人之碑 山崎弓雄謹誌

田中大秀翁は初名紀文、通称を弥兵衛と云へり、安永六年八月廿八日飛騨／国大野郡高山に生る、父を弥兵衛博道といひて、其祖先は往昔吉城郡蔵柱村の領／主姫田某の臣なりしとぞ、翁若き時より書見、歌よむ事を好み、尾張人粟田知／周翁、京人伴蒿蹊翁に従ひて歌文を学び、後又鈴屋本居大人の教子となり国学を／研究し、専ら敬神の道を主唱し、式内荏名神社の甚（イタ）く荒座（マセ）るを歎き、其御社を／再興し、傍に千種園を営み、男寿豊に家を譲り、彼所に移住して自ら荏野翁といひ、朝夕／大前に仕へ書ども著して学と歌の道を遍（アマネ）く人に教諭し、又雅楽をも好み京に／上りて其業を伝習し、人にも博く教へられたり、かくて齡七十（ママ）なりし弘化三年（ママ）の春吾父／弘泰に文机を譲り教の事ども委（ユダネ）られしが、翌年九月十六日齡七十一にて身罷（ミマカ）られぬ、後号を／豊美豆穂八束足穂大人（トヨミズホヤツカタリホウシ）と称て江名子村の松室岡上に葬れり、此度有／志の人々と謀りて翁が事跡を碑に彫りて後世に伝へんとて其／概略をかくなむ

明治三十年一月 山崎弓束謹書 湯萬年刻

(背面)

発起者 大池真澄 山崎弓雄 佐藤泰郷 吉島休兵衛

補助 熊野弥兵エ 住民平 藤井周助

賛成者 永田吉右エ門以下89名連記 碑面高さ 198 cm。

明治30年は大秀翁没後50年に当たる年であった。

この碑建立のための醸金額金476円・米1俵。碑は最初城山三之丸跡に建てられ、のち荏名神社境内に移された。山崎弓雄は、弱年にして大秀翁の門に入り、父に続き八雲形文台3代目継承者となった人。弓束は弓雄の弟。

リーフレットより